

2008年6月18日
トピー工業株式会社

新しい収益の柱として「サイエンス事業部」を創設！

－金属加工という既存の分野を越え、科学分野への挑戦集団－

トピー工業（本社：東京都品川区、社長：清水良朗）は、7月1日付でトピーグループの次世代の大きな収益の柱となる科学分野に挑戦する部門として、サイエンス事業部を新設いたします。

トピー工業は、これまでコア事業である金属加工以外の科学分野においても、積極的な研究開発を行ってまいりました。このたびのサイエンス事業部の新設は、これら研究開発のなかから、トピーグループの次世代の新たな収益の柱を創り出そうとするものです。サイエンス事業部は、①LED看板などの屋内外サインシステム、②化粧品などに使用される合成マイカ（雲母）、③床下点検などに使用されるクローラーロボットの3つの商品群を取り扱います。これら3つの研究・育成事業の同一事業部への集約は、以下の効果を狙っております。



写真：クローラーロボット

- ①高い成長が期待できる3つの研究開発色の強い事業を、事業展開と収益について責任を有する組織体制とする。
- ②独創性の高い3つの事業に対し、マーケティング、商品企画、営業企画など共有すべき機能を最重要戦略テーマとして捉え、これに取り組む横断組織を事業部内に設置する。

3つの事業のサイエンス事業部への集約に伴って、要員を今中期連結経営計画中に約60%増加させるなど、人員や設備投資などの経営資源の投下をより合理的かつ積極的に行います。サイエンス事業部を新たな収益事業として、研究開発テーマの中から選択と集中を進め、売上高100億円を目指します。

また、現在の技術統括部 技術研究所を、研究開発センターに改組し、既存事業の研究開発にとどまらず、商品化、事業化につながる研究開発をも目的とした技術の開発基地としての役割を持たせます。今後は、研究開発センターで必要技術の研究開発、事業化企画を、サイエンス事業部でその成果の事業化を担います。

現在、トピー工業では、中期連結経営計画（MS-2007）に取り組んでおります。今回のサイエンス事業部の新設は、その主要施策のひとつ「新製品・新生産方式の開発」の一環です。この施策にもとづいて、他社が真似できない新製品・新生産方式を開発し、グローバルレベルでの特色ある「オンリーワン」の地位確立に挑戦し続けてまいります。

以上

【お問い合わせ先】 総務部 広報担当 TEL.03-3493-0777

<ご 参 考>

【トピー工業株式会社の概要】

会 社 名：トピー工業株式会社
所 在 地：東京都品川区大崎 1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー
創 立：1921（大正 10）年 10 月
資 本 金：18,093 百万円
代 表 者：代表取締役社長 清水 良朗
事 業 内 容：自動車用ホイール、建設機械足回り部品、鋼材他の製造・販売
連 結 売 上 高：296,629 百万円（2007 年度実績）
ウ ェ ブ サ イ ト：http://www.topy.co.jp/

【サイエンス事業部の概要】

組 織 名：サイエンス事業部

「サイエンス」は、科学のほか知識や技術を意味するラテン語 Scientia を語源とする。道具造りなどの技術を由来とする言葉。

発 令 日：2008 年 7 月 1 日付 新設

事 業 内 容：

1) 屋内外サインシステム（看板）

トピー工業は、国内有数の高い広告効果を持つ屋外広告メディアの運営や大型プリンターによるポスター製作（商品名：ビッグプリント）はもとより屋外広告媒体の企画・選定から広告塔などの媒体施設の提供まで行う屋内外広告のトータルプランナーとして事業を営んでおります。



超薄型 LED 看板や屋外広告型クロスメディア「シューティング」などの新商品・新サービスの開発、展開を進めており、今後さらなる広告の可能性を追求していきます。

2) 合成マイカ

マイカ（雲母）は鉱物の一種で、独特の特性を持ちます。合成マイカは天然に存在するものとは異なり、高純度の原料より製造されますので、①重金属類などの不純物を含まず安全、②天然のものに比べて色にくすみがない、③耐熱温度が高く、より高温での使用が可能です。



トピー工業は、1987 年に化粧品の原料となる高品質合成マイカの実用化に成功いたしました。現在では、化粧品の基礎原料に加え、鱗片状の形状、高アスペクト比、耐熱性などの特長を活かして工業材料としても幅広く利用されています。

3) クローラーロボット

クローラーロボットは、他の移動機構を持つロボットに比べ、瓦礫などの不整地での走破性が最も高いとされています。トピー工業は産学協同で、高い機動性と信頼性が求められるロボットのクローラータイプの足回りモジュールを開発いたしました。トピー工業のクローラーロボットは、このモジュールを使用しており、人間では作業が困難な災害現場などの過酷な環境や住宅の床下といった狭小空間での探査・点検活動を行ないます。ユーザーニーズを受け止めてさらに開発を進め、ロボット実用化社会の実現に貢献してまいります。



以 上